

第4問 (20点)

富岡製作所では、実際個別原価計算を採用している。当月（4月）、製造指図書#101、製造指図書#102、製造指図書#103にかかわる作業が行われたが、このうち、製造指図書#101、製造指図書#102が完成し、製造指図書#103が月末現在未完成であった。製造指図書#101のみ前月製造に着手し、その他は当月着手している。以下の[資料]にもとづいて、次の各問に答えなさい。

問1 答案用紙の仕掛品勘定を完成させなさい。

問2 当月売上原価のうち、製造指図書#101にかかわる売上原価を計算しなさい。

[資料]

1. 製造データ

製造指図書番号	直接材料消費量	直接作業時間	機械稼働時間	備 考
#101	400kg	240 時間	200 時間	3/28 外注先払出、3/31 外注先在庫 4/2 完成・引渡
#102	500kg	320 時間	300 時間	4/10 一部仕損、4/25 完成 4/30 現在未引渡
#102-2	60kg	90 時間	55 時間	4/11 補修開始、4/17 補修完了
#103	650kg	170 時間	85 時間	4/30 現在仕掛中

なお、#102-2は、仕損品となった#102の一部を補修して合格品とするために発行した指図書であり、仕損はすべて正常なものであった。

- 直接材料の予定消費価格は800円/kg、直接工の予定消費賃率は1,200円/時間、製造間接費の予定配賦率は1,400円/時間である。なお、製造間接費は、機械稼働時間にもとづいて配賦すること。
- 製造指図書#101は、製造の仕上げとして特殊加工が必要なため、加工作業の一部を協力会社の御船社に依頼している。前月に当社での加工が完了した品を御船社に無償で引渡し、外注先から納品後、直ちに顧客へ引渡された。御船社に対する加工賃120,000円は翌月の7日に支払う予定である。

第 5 問 (20 点)

熊本工業では、製品 A を製造しており、実際総合原価計算を採用している。

次の〔資料〕にもとづいて、直接原価計算方式の損益計算書を作成するとともに、固定費調整を行い、全部原価計算方式の営業利益を求めなさい。

〔資料〕

1. 製造間接費については、製品生産量を基準として、正常配賦している。年間の正常生産量は 15,000 個であり、製造間接費の年間予算は、変動費が 14,000,000 円、固定費が 16,000,000 円である。
2. 製造間接費の当月配賦差額は、当月の売上原価に賦課する。
3. 月末仕掛品の評価方法は平均法による。

4. 当月の生産・販売データ (単位：個)

月初仕掛品量	300 (50%)	月初製品量	0
当月投入量	1,430	当月完成量	1,530
投入量合計	1,730	合計	1,530
月末仕掛品量	200 (60%)	月末製品量	330
当月完成量	1,530	当月販売量	1,200

(注) () 内の数値は加工進捗度を示す。

5. 月初仕掛品原価データ

直接材料費 528,490 円 変動加工費 ? 円 固定加工費 ? 円

6. 当月実際原価データ

直接材料費 2,412,510 円 変動加工費 1,392,000 円 固定加工費 1,620,000 円

7. 販売費・一般管理費の当月実績データ

変動販売費 422,500 円 固定販売費 780,000 円 一般管理費 (すべて固定費) 1,300,000 円

8. 前月の製造過程において、仕損・減損は生じていない。